

# テラルビシン膀胱内注入療法

#### 概要·目的:

表在性膀胱癌の再発予防および膀胱上皮内癌の治療目的に行います。※現在、マイトマイシンCは日本で使用できません。

#### 方法:

抗癌剤を膀胱内に注入する膀胱内注入療法の一種です。通常 1 週間に 1 回注入し、合計 6-8 回施行します。 現在マイトマイシン C が使用できないために使用しています。

内視鏡手術後に注入している薬剤と同一です。

BCG を膀胱内に注入する治療法後の再発に用いることもあります。

## 合併症(副作用・偶発症)について:

\*泌尿器科系統:排尿痛 25%、頻尿 20%が最も多く、次いで肉眼的血尿 8%、尿混濁、排尿困難、尿道痛、残尿感、膀胱容量減少、陰茎浮腫

\*全身症状:発熱 3%、下腹部痛・下腹部重圧感、倦怠感、食欲不振、関節痛、悪寒戦慄、悪心、肺炎、消耗、衰弱、蕁麻疹、口内炎、ストレス性胃潰瘍による出血、灼熱感、頭痛、咳、肝機能障害、腎不全、尿道狭窄、嘔吐、下痢、筋肉痛、腰痛、ソケイ部リンパ節腫脹、発疹、結膜炎等様々なものが報告されています。 重篤な副作用としては、切迫性尿失禁、膀胱タンポナーデ(膀胱内血腫)などの報告があります。 排尿痛、頻尿、排尿困難、残尿感などの膀胱刺激症状は、通常 1~2日のうちに消失します。 テラルビシンは赤い液体なので血尿と間違えることがあります。皮膚に付着すると刺激がありますので 皮膚にはつかないようにしてください。

## 他の治療選択肢・代替医療について:

BCG 膀胱内注入療法、マイトマイシン C 膀胱内注入療法、テラルビシン以外のアントラサイクリン系(アドリアマイシン系)抗がん剤の膀胱内注入療法、経過観察などがあります。現在、本治療と同等の治療成績が得られ、確立した他の治療法があれば主治医・担当医から説明があります。また患者さんもそのご家族も病気や治療に対する理解を深めるために疑問に思われることは遠慮なくご質問下さい。

患者さんご本人の年齢や全身状態や合併疾患、病変の大きさや広がりを考慮して治療法を提示しています。ご希望に沿った治療法を選択して下さい。ご不明な点はご理解を深めて頂けるようにご質問下さい。

#### セカンドオピニオン・自由意思による治療の同意とその撤回・ご本人の自己決定権について:

最終的な検査・治療方針の決定は患者さんご本人によってなされ、そのためにセカンドオピニオンを得る機会があります。また、予定される検査・治療に同意しない場合でも一切不利益をうけることはありません。また治療を開始した後でも、考えが変わった場合にはいつでも同意を取り下げることができます。この場合も、今後の治療や看護などの診療内容に不利益になることはありません。

## 説明日 @SYSDATE

# 同愛記念病院 @PATIENTFORMALSECTIONNAME

説明医師: @ACTIVEUSERNAME 印またはサイン	同席者:		_	
私は、 <u>テラルビシン膀胱内注入療法</u> の目的、方法およびの説明により充分に理解しましたので、上記の検査・治療		記の内容を	読み、また	医師
なお、緊急の処置・治療を行う必要が生じた場合には、過	<b>適宜施行されることについて同意</b>	意します。		
同愛記念病院 院長 殿		年	月	Я
本人氏名	印 ※署名がある場合は押印	·	/ J	Ц
家族等氏名	印(本人との続柄	)		

※本人の署名がある場合は家族等の署名は不要 ※本人が署名不能な場合や未成年者の場合には家族等の署名が必要